
じんけん ぶんか まちづくり

一般財団法人とよなが人権文化まちづくり協会

第 63 号 (2019 年 4 月)



巻頭コラム「申し入れ書」	3
歴史を歩く「『福田村事件』の現地を訪ねる」	6
治療とは何か「透析中止に思うこと」	12
友人の死「思い出」	14
人生を振り返って「偶然・出会い・繋がり・紡ぎあい」の54年…」	16
報告「ヘイトスピーチ裁判から考える複合差別」	20
平和ってなに？「利用者の立場に立った説明を」	27
パネル展「東日本大震災から8年」	28
書評「死体格差」	29
編集後記	31

表紙の写真「福田村事件『追悼慰霊碑』」

碑は、千葉県野田市三ツ堀 101 の円福寺「大利根霊園」の奥まったところにあるが、その「福田村事件」とは何か？ 1923年9月1日、「関東大震災」のときに、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」などという官憲によるデマが流され、戒厳令下で朝鮮人や中国人、社会主義者、労働運動家たちが虐殺された。軍や警察が直接手を下したのはもちろんだが、不安感と疑心暗鬼に駆られ、自警団となった民衆もまたこれらの虐殺に積極的に手を染めた。

9月6日、千葉県東葛飾郡福田村（現・野田市）で香川県三豊郡からきた行商団が自警団に襲われ、女性・子どもを含む9人が惨殺された（「福田村事件」）。荷車に薬や日用品を積んだ一行が、三ツ堀の利根川の渡し場に近い香取神社に着いたのは、10時ごろ。団長が船の渡し賃の交渉をし、6人が鳥居の元に腰を下ろし、9人は少し離れた雑貨屋の前で休んでいた。

突然、船頭が「言葉が変だ！」「朝鮮

人じゃないか！」と叫んだ。半鐘が鳴り、駐在所の巡査を先頭に自警団が押し寄せ、「どこから来た？日本人か？」と問う。「四国からじゃ。日本人じゃ」と答える。聞き慣れぬ言葉（讃岐弁）に不信は募り、「君が代を歌え、お経を唱えろ」などと迫られる。しかし、「こいつら、あやしい？」と一度火が付いた猜疑心は収まることはなかった。巡査が本署の指示を仰ぎにその場を離れたのが惨劇の始まりだった。

「やっちまえ」の怒号と共に、団長のとび口が、赤子を抱いて命ごいをする母親を襲う。泳いで逃げる者は追われて日本刀で切られた。発砲もあった。殺されたのは20歳代の夫婦2組と子ども3人、青年2人の計9人。母親の一人は妊婦で「死者は10人」とする研究者もいる。鳥居のそばにいた6人も針金などで縛られ、川べりに連行される。投げ込まれる寸前、馬で駆け付けた警官に保護された（6ページに続く）。

【事務局長：佐佐木寛治】

巻頭コラム

申し入れ書

豊中市長 長内 繁樹 さま

2019年3月14日
一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会
理事長 中川 幾郎

同和問題解決推進協議会「答申」をふまえた同和行政の推進についての申し入れ

2019年度は、2018年3月26日に出された「答申」を具体的に実行していく初年度に当たりますが、まずは市として「答申」をどう受け止めるのかを内外に明らかにし、実効性あるプランを策定していく、といったことが行われると思っていたところです。

しかしながら、同和問題解決推進協議会で事務局（人権政策課）が出した資料を見ると、現場レベルで議論するような教材資料が出されているだけで、市として「答申」をどう位置付け、どうしていこうとしているのかは、全く伺うことができないものでした。

市長がどうしたらいいですかと諮問をし、協議会がそれに答えたわけですから、市長から何らかのリアクションあって然るべきだと思います。それが、こうした「教材」（資料）ということにはならないはずです。これは協議会で議論するレベルのものではないし、いきなり、こうした「教材」みたいなものを出してきたのはなぜなのか、これで何をしようとしたのかと思います。

2002年以降、同和行政は法定受託事務から自治事務に変わり、自治体の自己責任でやることになり、それを「やらなくてもいい」と解釈する自治体も出てきました。だから、やる必要があるかどうかという判断は、自治体の部落問題に関する調査と現状認識にかかってきます。部落差別がなくなったのならやめたらいいですが、その場合もなくなったという証拠を出す必要があります。あ

るという証明はできますが、なくなったという証明はできません。国もバックアップする「部落差別解消法」がある中で、「しない」という論理展開はできないはずです。

私たちは、市が「答申」をどう解釈したのか、どういうふうを読んだのか、これからどうしていこうと考えているのかということをごひ知りたし、聞かせていただきたいと思ひます。その上でどうしていこうかという具体的話になるはずです。

1998年8月10日策定の同和行政基本方針が「まだ生きています」というのであれば、「答申」との今日的なズレ・差異をきちっと点検して、どこをどう変えたらいいのか、基本方針を現状に合せて仕立て直すくらいの作業はしてもらわないといけないと思ひます。

蛇足ですが、豊中市においては部落差別の現象が見受けられなくなりましたと言ひ切れるならそうした方針も計画も作業も必要ありません。人権一般の基本方針がありますから。

この間の経緯からは、「答申」が棚ざらし乃至は絵に描いた餅になり、部落問題解決に向けた今日的な取り組みの好機をむざむざと逸するのではという危惧を感じます。「部落差別解消法」の施行と「答申」という願ってもない根拠と追ひ風があるわけですから、ここは正面から踏み込んでいくべきだと思ひます。

あくまでも啓発と教育についての「答申」を受けたというのであれば、まずは啓発と教育に絞った基本方針と基本計画は出すべきだと思ひます。

「答申」に対する考え方を明らかにすることは、必然的に「同和行政基本方針」の改訂と新たな計画の策定につながるはずです。部落問題の解決に向けて、私たちと豊中市はともに知恵を絞ひ、汗をかき、ここまで進んできましたが、その歩みをより確かなものにし、新たな次元での取り組みを準備していきたくて思ひます。

以上、豊中市としての見解と対応を明らかにしていただくよう申し入れますので、よろしくお願ひいたします。

豊中市では、1968年に同和対策室が、1969年に同和対策審議会が設置され、部落問題解決に向けた本格的な歩みが始まりました。このいわゆる「同和行政」は、さまざまな人権課題への取り組みを促し、今日の人権行政の基底となってきました。

しかしながら昨今、多様化する人権課題の中に部落問題が埋もれ、社会的関心も薄まっています。これが問題の解決とリンクしているのであればいいのですが、どこが部落かを尋ねる問い合わせは絶えないし、インターネット上にはあからさまな差別情報があふれていることだけを見ても、楽観視できないことがわかります。

部落問題の解決を市の重点施策として一貫して取り組んできた豊中市であればこそ、こうした現実を前にして、「協議会」に新たな方策を諮問し、「答申」を得たのだと思います。その意味では、「答申」を瞳の如く大切にし、誠実に実行・履行することが求められることは言うまでもありませんが、「申し入れ」にあるとおりの経緯と事態のままにあります。

「申し入れ」は異例ですが、そうせざるを得ないほどの切迫感と危機感の反映であるということが出来ます。改めて「答申」をお読みいただき、部落差別の現状に触れ、問題のありかを目を向けて頂ければと考えます。

- 豊中市のHP トップページ⇒市政情報⇒附属機関（審議会・協議会・委員会）等⇒附属機関の一覧⇒組織別⇒人権政策課⇒同和問題解決推進協議会⇒答申等
- プリントしたものをご希望の方は、当「協会」にご連絡ください。（TEL06-6841-5300）

じんまち☆シネマ

張込み

入場無料、
申込不要です。
お気軽にお越し
ください。

6月7日（金）13時30分～

6月8日（土）10時～

会場：豊中人権まちづくりセンター

松本清張の
原作小説を野村
芳太郎監督が描い
たミステリー映画の名
作！1958年製作・
116分

歴史を歩く

「福田村事件」の現地を訪ねる

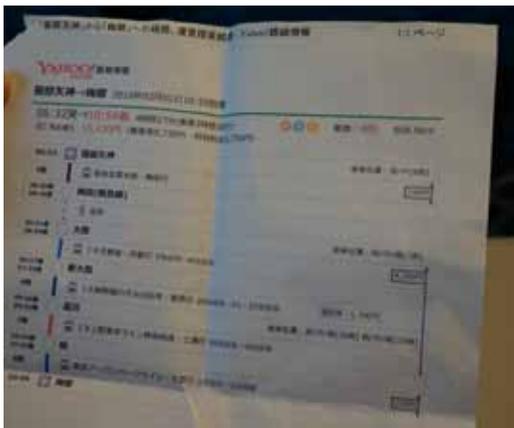
佐佐木 寛治【事務局長】

1. 「梅郷」から歩くが…

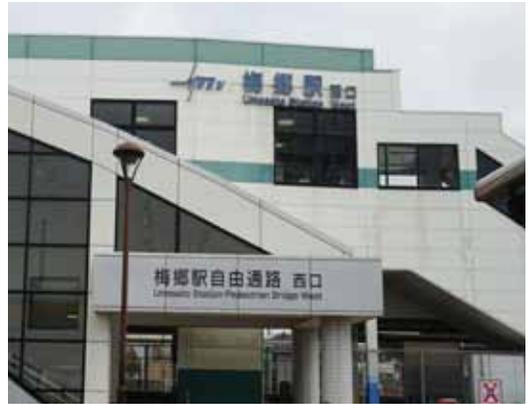


現地図：辻野弥生さん著書「福田村事件」より

朝方は曇っていたが、時間の経過とともに陽が射し、暖かくなっていった3月1日。早朝に大阪を発つ(写真②)。



②路線図



③梅郷駅

4時間半かけて最寄り駅の「梅郷」に到着(写真③)。あらかじめ経路を^{うめさと}チェックはしていたが、現地を歩き出



④道なき道

すと、やはり勝手が違う。最初のうちは予定通り、チェックポイントが見つかり、順調に進んだが、三叉路を地図通りに右折したところから怪しくなり、

ついには道なき道へと入り込んだ（写真④）。



⑤畑の中

戻るという選択はなく、行くしかないと決めて前に進むと、開けてきて、地図にある場所に出ることができた。やれやれと先を行くと、今度は畑の中へ（写真⑤）。行きつ戻りつするがどうも違う。人がいそうなところに向かうと、ゴルフ場が。ここで聞かないと迷いっばなしになると思い、ドアを開ける（写真⑥）。



⑥ゴルフ場

カウンターはお客さんで賑わっていたが、親切に教えてもらった。ゴルフ場脇の道を歩くが、これがなかなか長い。やがて、聞いた目印を右折する



⑦大利根霊園

とお寺と神社があった。しかし、慰霊碑らしいものが見当たらず、お寺も無人で聞くこともできない。

それではと少し戻ると、霊園らしいものが見える。おお、大利根霊園、ここだ！ぐるっと回って入口へ（写真⑦）。少し離れた奥まったところにそ



⑧碑の裏面

れはあった。大きな碑だ。そばには卒塔婆もある。裏側には亡くなった人の名前や年齢が刻まれている（写真⑧、俗名は伏せた）。「胎児」との文字もあり、生々しさが伝わってくる。事件から80年の日に建ったこの碑は、この間の重みを背負って立っている。



⑨香取神社

次は「香取神社」だが、社務所で尋ねると、外まで出て来て親切に教えていただいた。先ほどの無人のお寺の横がそうだった。よくよく見ると「三堀香取神社」と書かれている（写真⑨）。とても古そうだ。鳥居のところにいる6人は助かったが、少し離れた店のところで休んでいた9人が犠牲になった（写真⑩、鳥居の前方右）。



⑩神社から臨む



⑪利根川

神社には大きな木や石灯籠もあるが、鳥居も含めてこれらはあの惨劇があったときもそのままにあったに違いない。利根川は坂道を下ったところで、あたりはゴルフ場になっているが、標識のあたりだろうか（写真⑪）。

2. 加害者と被害者

殺人罪で逮捕・起訴されたのは、福田村の4人と隣の田中村（現・柏市）の4人の計8人だけだった。一審の千葉地裁は、懲役15年～8年を言い渡したが、一人を除いて上告した。1924年9月3日、控訴院は10年（2人）、8年（1人）、6年（1人）、3年（3人）の実刑を言い渡し、被告らは収監された。しかし、1926年12月15日に大正天皇が死去し、翌年の昭和天皇の即位に伴う恩赦で、二審から2年5か月後、全員釈放された。

ところで、両村は弁護士料を村費で負担し、村民は義援金を集めて贈ったり、農作業を手伝うなどして留守家族を助けた。



⑫マンホールのフタ

中心人物の一人は出所後、村長になり、合併後は市議も務めたという。が、被害者への謝罪は誰からもどこからもなかった。

被害者は香川の被差別部落の人たちだが、乳飲み子連れ、家族挙げて1000キロも離れた関東地方にまでなぜ来たのか？その事情について、2018年4月25日の「朝日新聞（香川版）」「差別を越えて＜1＞」は、「農地や工場が少なく、就職差別も根強かった県内の部落では、薬や呉服の販売、傘や靴の修理、廃品回収といった行商が主な産業だったことが分かった」と書いている。

行商は香川の部落産業と言われるほど多くの人に従事していたとも言われている。しかし、当時の防犯ポスターには、「あやしい行商人をみたら警察へ連絡せよ」と書くなど、行商を軽蔑する見方があった。また、1910年の「日韓併合」で朝鮮が日本の植民地になって以来、朝鮮人に対する民族差別は急

速に強まった。こうしたことが事件の背景にあった。

被害者の地元や県からの抗議はなかった。事件の前年（1922年）には全国水平社が創立され、事件の1年後（1924年）には香川県水平社も結成されたが、公然と声をあげることは難しかったのだろう。かくして9人（10人）の死は、歴史の闇にしまわれた。ようやく2000年3月に香川で「千葉福田村事件真相調査会」が、7月に千葉で「福田村事件を心に刻む会」が結成され、2003年9月6日に犠牲者追悼の慰霊碑が建立されるに至る。

辻野弥生さんの著書「福田村事件 関東大震災・知られざる悲劇」（写真⑬）にはこうある。

「香川県側からは、『関東大震災の直後の一九二三年九月六日、おりからの流言蜚語を信じ、行政機関によ

って組織された旧福田村、田中村の自警団によって、ここ三ツ堀において、香川県三豊郡出身の売薬行商人一行十名



⑬福田村事件

が非業の最期を遂げた。私たちは、二度と歴史の過ちを繰り返さぬことを誓い、ここに芳名を記し、追悼の碑を建立するものである』と碑の裏面に入れるよう要求が出されていたが、結果的にそれは叶わなかった。しかし、碑の裏面、左には何らかの文章を入れることを想定したスペースが設けられている。いつの日か国家の責任を明確に問うた碑文が入れられることを、願ってやまない。」(本書は、センター資料室にあります)

大震災と戒厳令とデマという状況下で、人々はハリネズミのように神経を逆立て、「武装」して事あらばと待ち構えていたのだろう。日ごろは朝鮮人を人間扱いせず、ひどい扱い・仕打ちをしてきたから、仕返しをされるのではとの恐れを抱き、それが暴走に手を貸したこともあるだろう。朝鮮人ならば何をして構わないという普段の意識は、状況によっては命をも奪うような残虐な行動に駆り立ててしまう。

そうしたありようの奥底にあるものは何なのかと思うが、その手を血で汚した人も根っからの悪人ではなく、どこにでもいるただの人に違いない。それが、たちどころに豹変し、殺人鬼集団となってしまう。

「明治」以来の戦争と侵略、皇民化教育がもたらしたものということができようか？(ヘイトの行き着く先とも言えるだろう)

それを忠実に体現し、実行行為にま



⑭バス停

で及んだ人もまた違った意味で「犠牲者」と言えるかもしれない。96年前、ここであったことを忘れるわけにはいくまい。

帰りはバスでと思ったが、乗り遅れて歩く羽目になった。食事をとる店もなく、駅近くの「うなぎ」ののれんのかかったひなびた店「田むら家」に。どうかな?と思ったが、言う事なしだった。これは、サービスの「ごた」という地元料理。材料はとうふと大根



⑮ごた

と酢、白和えみたいなものだが、少し甘い（写真⑮）。

また、この事件をシンガーの中川五郎さんが「1923年福田村の虐殺」（23分9秒）という曲にし、CDアルバム「どうぞ裸になってください」に収録している（写真⑯）。情景がまざまざと浮かび、胸が苦しくなるが、ぜひ聴いてほしい。その歌の最後のフレーズでレポートを閉じる。



⑯どうぞ裸になって下さい

見知らぬ人には親切に
苦境の人には助けの手を

それがよその土地の人であれ
よその国の人であれ

たとえ自分たちと違っていても
言葉が違っていても

信じることから始めよう
それが人の心というもの

昔も今も日本人は
よそ者を嫌い

身内だけで固まる
狭い心の持ち主なのか

デマや流言飛語に弱いのは
臆病者の証拠

信じることから始めよう
人はみんな同じ

朝鮮人だとか部落だとか
小さな日本人よ

朝鮮人だとか部落だとか
小さな人間よ

人権文化のまちづくり講座

児童養護施設ってどんなところ？ ～社会的養護を考える～

とき：6月22日（土）10時～12時

お話：土井 聡子さん（水上隣保館児童養護施設 翼 主任）

会場：豊中人権まちづくりセンター

入場無料
申込不要

治療とは何か

透析中止に思うこと

山口 博之【評議員】

はじめに

福生病院で女性患者が透析中止され、死亡したニュースが3月7日毎日新聞に載り、以降20日までには殆どの新聞に取り上げられ、今では週刊誌、TV等で話題になっています。

現在、様々な立場から多様な意見が出ていますが、私なりに論議の起点となった新聞記事を紹介しつつ、私の思うことを書いてみます。

一面に「透析中止 患者に『死』提案」



との見出しがあります。これには、事実経過・医師・透析学会の意見・厚労省地域医療計画課の話が取り上げられています。

三面にクローズアップ2019という大きな記事があります。これには、①医師、患者の迷い軽視 ②外科医「医療行為の一環」 ③医療関係者「押しつけ」との各見出しがついています。

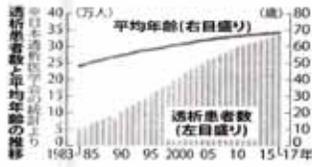
クローズアップ2019から

①「医師、患者の迷い軽視」の記事の1段目から、女性の死亡までのことをここに書きます。

夫(51)によると、女性は1999年、自殺の恐れがある「抑うつ性神経症」と診断されていた。自殺未遂が3回あり、「死にたい」「これ以上苦しいのが続いたら、生きていない方がましだ」と漏らすことがあった。女性は「シャントが使えなくなったら透析はやめようと思っていた」と、いったんは透析中止を決めて、意思確認書に署名した。外科医は看護師と夫を呼んで再度、女性の意思を確認した。夫は迷いながらも中止を承諾する。女性は「今は症状がなく、家に帰りたい」と希望し、診療所に戻った。「在宅で、おみとりです」。

医師、患者の迷い軽視

「透析再開したいな」翌日死亡



「死」の選択肢提示の現場になった公立福生病院の腎臓病総合医療センター。東京都福生市で2月、高橋義彦撮影

東京都福生市の公立福生病院で人工透析治療の中止という選択肢が外科医50から示され、腎臓病患者の女性(当時48歳)が死した。透析しない「撤回」ようかな。くなるまで女性の胸中は揺れた。いったん「死」を避けた彼女に何があったのか。(1面参照)

「おそろしく痛いわい、ある、即ち(元補綴症)とで死を迎えます」。昨年8月1日、外科医は、そう交がる向きあり、「死にたい」性告げた。女性は血涙、この以上苦しいのが続く化のために胸に付った血費、生きてない方がまの分路(シャント)がぶす、と願うことがあった。女性にはシャントが使えなくなった。透析は止めようかと思つて、いた、とい、つたは透析中止を決めて、意図確認書に署名した。外科医は看護師と夫を呼んで、再度、女性の意思を確認した。夫は迷いながらも中止を承諾する。女性は「今は

ある、即ち(元補綴症)とで死を迎えます」。昨年8月1日、外科医は、そう交がる向きあり、「死にたい」性告げた。女性は血涙、この以上苦しいのが続く化のために胸に付った血費、生きてない方がまの分路(シャント)がぶす、と願うことがあった。女性にはシャントが使えなくなった。透析は止めようかと思つて、いた、とい、つたは透析中止を決めて、意図確認書に署名した。外科医は看護師と夫を呼んで、再度、女性の意思を確認した。夫は迷いながらも中止を承諾する。女性は「今は

症状がな、急に怖い、と希望し、診療所に戻つた。17日、おみどりです。治療すると思つて、い病院からの電話で診療所側は言葉が失つた。直前の透析治療は2日前の7日。尿が出ない体に毒素がたまり、時間がなかった。カテーテルを病院に入れてもらうよう女性を説得すると、女性は「病院で相談する」と言って帰宅した。

毎日新聞
3月7日

治療すると思つていた病院からの電話に診療所側は言葉を失った。直前の透析治療は2日前の7日。尿が出ない体に毒素がたまり、時間がなかった。カテーテルを病院に入れてもらうよう女性を説得すると、女性は「病院で相談する」と言って帰宅した。

翌10日。同院腎臓病総合医療センターの腎臓内科医によると、面会した女性は「透析しない意思は固い」「最後は福生病院にお願いしたい」と話した。しかし、4日後の14日、「息が苦しくて不安だ」とパニック状態のようになつて入院した。15日夕。女性

の苦痛が増した。夫によると女性は「(透析中止を)撤回できるなら、撤回したいな」と明かした。夫は「透析できるようにしてください」と頼んだ。

外科医「医療行為の一環」

公立福生病院の外科医や腎臓内科医との一問一答は次の通り。
—なぜ死ぬ選択肢を提示するのか。
外科医 腎不全に根治(完治)はない。根治ではない「生」に患者が苦痛を感じる例はある。本来、患者自身が自分の生涯を決定する権利を持っているのに、透析導入について(患者の)同意を取らず、その道(透析)に進むべきだといふように(医療界が)動いている。無益で偏った延命措置が取られている。透析をやらない権利を患者に認めるべきだ。
腎臓内科医 透析を否定しているわけではない。インフォームドコン

セント(十分な説明に基づく同意)だ。情報を与え、同意していただく。
—学会や国のガイドラインから外れている。
腎臓内科医 ガイドラインは「説得をして透析を続けさせよう」という「継続ありき」だ。変わっていくなければならない。
外科医(女性) 本人の意思確認はできていて、(医療は)適正に行われた。(女性を含めて)透析をしている人は「終末期」だ。治る可能性があるのに努力しないのは問題だが、治らないのが前提。本人が利害をきちんと理解しているなら(透析治療の中止は)医療の一環だ。

毎日新聞 3月7日

外科医によると、女性は「こんなに苦しいのであれば、透析をまたしよかな」と数回話した。外科医は「するなら『したい』と言ってください。逆に苦しいのが取れればいいの？」と聞き返し、「苦しいのが取れればいい」という女性に鎮静剤を注入。女性は16日午後5時11分、死亡した。

以上の記事をあなたはどう読みましたか？

私は心理学のエレンランガー氏が「マインドフルネス」という本で「患者は医師に病名を告げられると、その治療法以外は思いつけない」と書いてあったのを思い出します。

私は、患者が痛みや苦しみから、「死んだほうがマシ」「ラクになりたい」から治療を受けるのだと思います。でない治療は受けません。

この件をきっかけに「治療とは何か？」をみつめ直さないと大変なことになると思っています。

医療関係者「押しつけ」

外科医の一連の行ない権利を患者に認めさせたい。医療関係者は押しつけだとする意見から、治療中止を患者に提案するなどの声が上がっている。

外科医の主張はこうだ。腫瘍などを患う患者は、治療の進捗に不満を抱く。その一方で、患者は治療中止を望む。これを機に、患者の意向を尊重し、治療中止を提案する。これにより、患者の意向を尊重し、治療中止を提案する。これにより、患者の意向を尊重し、治療中止を提案する。

「押しつけ」は、多職種によるチーム医療を実現することにもつながる。状況に応じて倫理委員会の助言を求め、医師に治療中止を提案する。これにより、患者の意向を尊重し、治療中止を提案する。

「押しつけ」は、多職種によるチーム医療を実現することにもつながる。状況に応じて倫理委員会の助言を求め、医師に治療中止を提案する。これにより、患者の意向を尊重し、治療中止を提案する。

「押しつけ」は、多職種によるチーム医療を実現することにもつながる。状況に応じて倫理委員会の助言を求め、医師に治療中止を提案する。これにより、患者の意向を尊重し、治療中止を提案する。

毎日新聞 3月7日

友人の死 思い出

八塚 勇一【理事】

先日、関大解放研の仲間からMが亡くなったことを知らせる電話があった。彼と知り合ったのは、大学3年生の時に吹田の光明町支部の子ども会に解放研として関わりだしたときだったと思う。

我々は、夏休みの指導員としていていた。団地の住宅集会所2階和室が活動の場所だった。仕切っているのは、小学6年生の6人の女の子達であった。午前中は勉強会（夏休みの宿題など）で、午後は遊びの時間だった。小学校

のプールを日曜日一日、地域に使わせてくれる日に水泳大会をすることになり、我々解放研が下準備をすることになった。当日の進行は、青年部がすることになっていたのので、進行しやすいように各競技の参加者名が入ったプログラムを作った。当日は、青年部のメンバーが順調に進行して水泳大会は終わった。終わり頃にご苦労様、胴上げやと言ってプールに放り込まれたのがMら高校生との出会いだった。

ムラの中に住みだした我々のところにMは、毎日のように「風呂に行こう」と誘いに来た。ムラの共同浴場に長い時間一緒にいた。他の高校生が来るのを中で待っていたりして。こうしたことが、ムラの中になじませてくれたように思う。

当時支部で青年を指導していたYさんが主催した解放塾や芦生の京大演習林でのキャンプ。様々なたたかひがあり、濃密な時間を共に過ごしていた時期でした。

私が、豊中市に勤めだし、あまり会わなくなったが、会費制の私たちの結婚式に彼らが参加してくれた。何年かして、風の便りに彼が、兵庫県連の事務局で働いていると聞きました。それからは東京での狭山集会で、顔を合わせたときに少し話をしていたぐらいでした。2012年にピースボートの世界一周の旅に乗ったときに40年ぶりぐらいにYさん夫妻に船上で会いました。Yさんは、退職後函館に住まれ、ここ数年は冬の間だけ吹田に戻ってくる生活をされていて、函館に帰る前に

自宅でパーティーをするのでおいでと誘われて参加するようになりました。M君も一度来たときに久しぶりにいろんな話をしました。

最後にあったのが、一昨年暮れの忘年会。解放研の仲間が、関大の正門近くに開いている喫茶店。40年ぶりに会う仲間もいたけど昔の雰囲気で話が弾んだ。彼は、「鳥取ループ」のことを詳しく話をしてくれた。解放新聞などでは読んだことのない話だったので記憶に強く残っている。他の予定があったので、早くでたことがいまでは悔やまれる。

あのとき高校生であった3人が既に病気で亡くなった。悲しいし、寂しい。

日朝県民会議の事務局を県連退職後も担っていた彼は、亡くなる前に朝鮮高級学校の無償化のことが十分出来なかったことを悔やんでいたという。最後まで運動家であった。

M君が亡くなったことを聞いて、学生時代のことをいろいろ思い出したが、どうも時系列がはっきりしない。記録に残した方がいいような事件の連続だった吹田時代。学内でも体育館に入りきれない学生が集まり、解放教育体制の確立を求めて行った交渉。部落問題研究室が関大に出来たのはこのときだった。

本当はいつもの本の紹介をするつもりだったので、本の紹介だけです。堤未果著「日本が売られる」(幻冬舎新書)

読む価値のある本です。社民党の新



春の集いで講演をお願いした鈴木宣弘さん（東大教授、元農水省官僚）の話でも日本の食の安全は、売られた後

でした。これからの日本はどうなるのかです。

NHK「女性たちの貧困」取材班著 「女性達の貧困」新たな連鎖「の衝撃」幻冬舎

少し前の本ですが、衝撃です。NHK

の「日曜討論」で少子化の問題をやっていたのですが、経済が基本であることを忘れていていると思います。「子どもの貧困」でも書かれていましたが、いい労働が必要で、劣悪な労働は、貧困に追いやるだけです。労働の量ではなく質が求められています。



人生を振り返って

「偶然・出会い・繋がり・紡ぎあい」の
54年…。なかなかの歩みです。

石原 敏【評議員】

順ちゃんとの出会い

1965年、福祉会館の階段下スペースに、青少年係所管の豊中学生ボランティア協会の事務所があり、会員になりました。夏休みに児童館で小・中学生に勉強を教えることになりました。

轟木公園側から入ると、「児童館」の文字が見えました。公園の四分の一

はバラックの家屋がひしめいていました。解放（改良）住宅1棟の入居待ちとわかりました。それが部落差別問題、解放運動への入り口です。

日焼けした子ども達の学習面はひどいものでした。小～中～高と成績ガタ

落ちの私がびっくりしました。読めない、書けない、計算できない…落ち着けない…どこからはじめる？椅子、畳に坐り、机にむかうことからでした。

おとなしい、ひとなつっこい笑顔の目がきれいな、サッカー好きの順ちゃんが印象に残りました。彼が「定時制の高校へ行きたい」と言ってから、さあ、たいへんです。読み書き、掛け算、割り算ができないところからのスタートです。夜、遅くまで二人でがんばった甲斐あって、働きながらの通学、卒業、就職となります。

○先生の見守り、就職先選択のかかわりが力となりました。2～3の仕事を経て、豊中市役所へ就職し、解放会館児童係勤務となり、子ども達との格闘、部落解放同盟豊中支部書記長もこなすという日々をおくります。人生いろいろ…彼と家族の決断…現在は、神鍋高原で「ゲストハウス アミーゴ」をやっています。

TEL・FAX 0796-21-1230

兵庫県豊岡市日高町名色 1230 番地

子ども達の遊び、やすらぎの遊び場、たまり場…児童館プール（水遊び場）

1955年、いち早く児童館を開設した豊中市には先見の明がありました。「ピーターパン」というワゴン車に遊び道具を積んで、公園回りをしたり、三歳児の集いなどをやり、発信してい

ました。

かんちょう、カンチャウ、…と威張るな館長、かんちょう、プール番のなれのはて…の囃子がこだましたアルバイト。小学生までだったんだけど、シャワーだけ！頼むわ！と中学生。児童プール二つをつなぐ穴があり、あぶないからくぐるな！が徒労に終わるくぐり抜け遊び。氷、キャンデー…たべながら、夏の間のオアシス。



小～中学生はおとなしい、ふつう、ワル？と多士済々の面々がそろっていました。毎日、追っかけ合い、怒鳴り合い、ついには梅田のディスコへ探しに行く…。彼らが還暦前後なんですから…。「部落解放豊中子ども会」ができるのは、1973年、解放会館発足と同時です。

もっとも熱い日々

1970年11月、市職員になります。すでに豊中解放会館建設工事がはじまり、豊中市同和事業促進協議会のプレハブ事務所に自席がありました。11時出勤、23時退勤。夜の集会などの開始時間は19時30分。集まりが終わっ

てから、あれやこれやの議論がはじまります。

部落解放同盟大阪府連合会青年部の結成大会で、西岡智さん、土方鉄さんから狭山事件・石川一雄さんのことを聞きます。溝口（正美）さんとバケツに糊を作って、ステッカー「狭山差別裁判糾弾！・石川さんは無実だ！」を電柱に貼りまくります。1987年5月、異動となり、他で続ける気がなかったので、勝手気ままに退職します。異動先には迷惑をかけました。狭山と運動に魅力があったんです。きれることなく運動の周縁にいつづけてます。

1975年5月14日、東京拘置所でガラス越しに石川一雄さんと面会します。「豊中って、狭山ゼネスト（1974年9月26日）をやってくれたんですよ！ありがとうございます」。やりつづけなければ…仁義がすたります。

狭山同盟休校、盟休宣言という重さ

ず～っと思いつけてます。積み重ねのない子どもたちが「部落民宣言」をするんです。大変なことです。1975年12月、その方針が子ども会指導員に伝えられます。実行は1976年1月です。取り組む時間がありません。議論を重ねました。反対はしましたが、方針通り行い、複雑な心をかかえたまま連帯の挨拶まででしたのです。当該の子どもたちの気持ちはどうだったの



しょう？聞けずにきています。

先生たちも悩んだようです。克明小学校100周年記念誌に、亡くなられた梶山憲一さんが想いを綴られています（一部抜粋）。

～1月27日火曜日6時間目には狭山事件の特設授業を行った。2人の子が、盟休宣言をした。何とか励ましの言葉をかけてやろうとするが、涙が流れて頭を上げることができない。せめて自分の論理で、言葉で、意義を話してやることでできていたら、こんな思いをしなくてもよかったのかもしれない。この時から、克明小学校の教師たちの多くが、真剣に「同和教育」を考え始めた～

佐々木かよさんとの再会

2018年、濃密な一年でした。2017年暮れ、寺本美鶴さん（評議員）から手渡された自費出版詩画集「心にとどけ」を手にしました。ぺらぺらとめくるまでもなく、心にとどきすぎて涙があふれました。すぐに電話。

「ええやん！とどきすぎた！絵も、



文章も…。20部ほど送ってや。紹介したいから」「えっ、びんちゃん、ひさしぶり！ありがとう」。勝手マネージャーで友人、知人…に送付。感動の反応届き、注文も。

メール、手紙、冤罪狭山事件（石川早智子さん）のHPでの紹介もあり、埼玉、千葉、東京、長野、札幌、三重、兵庫、島根、福岡、大分、熊本の人たちと繋がりました。

「甲山事件」の山田悦子さんからは「ありきたりの言説では表現できない、なんとも不思議な希望に満ちた、心明るくなる上手い絵です。プロ並みです」との賛辞と自らの冊子、本が届きました。

24時間、酸素ボンベ吸入が必要で、毎朝、体調が気になる彼女ですが、実にポジティブ、やる気満々。電話好き。咳き込むのにね（笑い）。

6か月かかりで、石川一雄さんのパネル（72 cm × 42 cm）人間・石川一雄、早智子さんの（40 cm × 30 cm）を和紙

で完成し、二人に贈りました。

一雄さんが唸り、（早智子さんは）胸にストーンと落ちた。石川のことも、私のことも百回話すより、この詩が雄弁。ヒマワリも。コスモスもかわいい…。と二人から本人にお礼の電話があり、「うれしすぎて発作がおきるわ」と。

一雄さん的一部

「逮捕されてなかったら 今の自分はない。自分と向き合うこともなかった 文字を覚えようと あれだけ必死になって 勉強することもなかった」

早智子さん的一部

「どこまでも一緒。無罪を勝ち取るまで 絶対にあきらめない。それが私の生き方、私の誇り。いつか来る“歓喜の日”を最高の笑顔で迎えたい」

続いて、石川一雄 「再審」への道

語り歌、この声が聞こえるかの作詞、原曲を作るというハードさ！アレンジ、ギター、CD制作は友人のSさんが…。しつとりと、したたかに…心に狭山がせまります。

すでに 8人目の担当裁判官 ここが重要な大きな山場となる

3月8日、「死刑判決」から55年、

埼玉の狭山集会はいつもの倍の県警の警備だったとのこと。油断することなく、4月の三者協議（39回目）にむけてできる限りのことを！

おわりに

6年間、欠席ばかりで申し訳ありません。評議員は辞しますが、繋がり、歩み続けます。

報告

ヘイトスピーチ裁判から考える複合差別

森山 輝子【事務局】

2月13日に開催された人権文化のまちづくり講座は、フリーライター^{リシネ}の李信恵さんにお越しいただきました。女性で在日韓国朝鮮人というだけで、名前も顔も知らない人から「死ぬ」「殺せ」のメール、動物の死体、卑猥な動画やグロテスクな画像が何万件も送られてくる恐怖。路上では名指しの罵詈雑言。そんな経験をしたにもかかわらず、李さんの明るさ、パワフルさに驚き、聞く側が元気をもらえました。この日は、「大阪のおばちゃん」をイメージした、ご自身で裁縫されたヒョウ柄のチョゴリを纏ってお越しくございました。李さんの多岐に渡るお話は、人としてどう生きるかを考えさせられるものでした。【文責：森山輝子】

在日朝鮮人 2.5 世

アンニョンハシムニカ！！私は、この「アンニョンハシムニカ！」という言葉が好きで、みなさんの前でお話するときには、この言葉からスタートします。

私は、東大阪市という所で生まれて育ちました。

大阪では生野区が一番在日朝鮮人が多く、大阪市が大阪で一番多いです。その次に多いのが東大阪市です。全国的に見ると、1位が大阪の大阪市なのですが、2位が東京の新宿区に変わりました。それは、韓国人とニューカマーの人が増えてきたからで、新大久保も

コリアタウンみたいな感じで発展しています。

アボジが小さい時に朝鮮半島から岡山にやって来た時は戦争の直前で、朝鮮半島は日本の植民地下にありました。

オモニは2世で、ハラボジとハルモニが朝鮮半島からやってきて、大阪の生野区で生まれました。アボジが1世なので、アボジからいうと私は2世になります。オモニは2世なので、オモニからいうと私は3世になります。アジアでも世界でも、だいたい人がルーツを語る時は、父方のルーツで名乗ったりします。

在日も日本人も、結婚したら9割以上の人は、名字が男の人の名字になり、女性のルーツは消えてなくなったりするので、そういうのが嫌だなと思って、無理やり間を取って2.5世と名乗っています。よく取材を受けた時に、2.5世だとややこしいので、繰り上げてくれないか？と言われますが、そこは何とか2.5でお願いしますというやり取りをしています。

民族名と日本名

名前を変えたのが15才のときだったのですが、今まで偽名で来たわけでもないし、日本名も、私の大切な名前なので、いつも本名と言わずに「民族名」といい、通名と言わずに「日本名」という言い方をしています。

私はずっと、小・中・高と日本の学校に通ってきました。大学も大阪芸大という日本の学校に通っていました。当事、朝鮮学校が公立の学校と認められていなかったの、公立の大学に行こうとすると、朝鮮学校の生徒は高校認定試験を受けないといけませんでした。でも、大阪音大と大阪芸大と大阪工大は、朝鮮学校も高校とみなして、高校認定試験なしで受験ができた学校でした。

「朝鮮人」という言葉

今日は、ヘイトスピーチや複合差別について話をしようと思っていますが、ヘイトスピーチというのは、差別発言やまたは差別を煽動する言葉や行



為のことです。

しかし、これも文脈にもよります。例えば、私は先ほどから「朝鮮」とか「朝鮮人」という言葉を連発していますが、これは私が言うときに、自分は自分で「私は朝鮮人です」と「朝鮮人の2.5世です」とか「朝鮮学校が」とかは差別用語ではありません。でも、差別発言だとかヘイトスピーチをする団体の人が言う「朝鮮」とか「おい！お前！朝鮮人やろう」というのは差別用語です。文脈によっても変わってきます。偽証するときと他人が悪意を持ってぶつけるときで、言葉は変わっていくということも、覚えておいてください。

私は、取材の時などでも「朝鮮人」という言葉を使うようにしています。私は「朝鮮」という言葉がすごく好きです。朝が弱い自分が言うのもなんなのですが、「朝の鮮やかな国」という、国を表すときにすごく綺麗な言葉だなと思っています。けれども「朝鮮人」というのは、差別用語でもあります。この日本の中にと、朝鮮人という

と、否定的な意味で「朝鮮」という言葉が使われます。そういう背景もあるので「朝鮮人」という言葉が差別用語でなくなる日まで、しつこく使い続けようと思っています。

在特会

この中で、今日の講演に来るまでに、インターネットを使って私の名前を検索した人はおられますか？

人によって検索して出てくるのは違ったりしますが、スペースを空けると予測変換みたいな物が出て来ます。その時に大体出てくるのが「売国奴」「反日記者」「チョンコ」とかいっぱい並んでいます。

在日は特権がある、在日は日本人よりも優遇されている。ない差別をあるあるとあって、それでお金儲けをしているという人が増えてきました。それが「在日特権を許さない市民の会」(在特会)と呼ばれる人たちで、その人たちが、インターネットを飛び越えて路上に出て来たのが2006年ぐらいと言われています。在特会ができたときには、会員数はインターネットで500人ぐらいでした。昨年(2014年)の11月の会員数が16,436人ぐらいいました。在特会の会員になるのは簡単で、メーリングリストに登録するだけです。しかも、メーリングリストに登録すると、退会する機能がないのでどんどん増えていきます。会員になっている人の中には、監視や取材目的で入っている人もいますが、おもしろ半分に入った人とかも

いたとしても、1万人以上は、何らかの関心を持って入った人がいるので、市民団体としては、日本では最大級というか、勢力のある団体です。

現場にいた唯一の女性

さきほど、デモ動画を見てもらった通り、ひどいヘイトスピーチが、2013年の終わりから2014年にかけてありました。2011年に朝鮮大学で、秋に文化祭があると聞き、福島の大学生たちと共に復興を目指そうということで取材に行きました。着いたときにはもの凄い数の警察官と日本国旗を持った人が並んでいました。在特会という名前は知っていたので、又ここにも来たのかと思って、大学の中に入ってイベントを見ながらホルモンを食べていました。

文化祭が終わってしばらくしてから、在特会側から撮った動画をYouTubeにアップしていました。その時の動画を見ると、玄関先にいる私が拡大されて映っていました。まあ、綺麗やから拡大しているのかなと思ったのですが、そんなことはなく、在特会



とか差別する人は、老人とか子どもとか女性を狙って罵倒していました。たぶん、その動画に映っていた私も玄関先にいた唯一の女性だったので、嫌がらせのために拡大して顔をさらされたのだと思います。

関心のない警察とメディア

デモのその人たちを見た時に、96年前に関東大震災があって、朝鮮人が殺されたのはデマだと言っていました。ほんまにあったんや、その時に朝鮮人を殺した人は、井戸に毒を撒いたというデマを本当に信じたのではなくて、ただ嬉しそうに、笑いながら殺していたんだと、この時にふと思いました。それで、すごく怖くなって、たまたま交番を振り返って見たら、交番の中で、おまわりさんがストーブで手を温めながら、楽しそうに笑っていました。目の前で「朝鮮人は死ね、殺せ」というデモが通っているのに、警察官は笑いながら、何もなかったかのようにストーブにあたっているのを見て、警察は関心がないんやと思いました。でも、その酷いデモを見て、テレビや新聞はどこも報道していませんでした。普通のデモなら40～50人でもニュースになるのに、何でニュースにならないのか？こんなに酷い事が行われているのだから、発信してわかってもらわないといけないのではないかと、思って、原稿を書くようになりました。原稿を書くようになってから、当時の在特会会長の桜井誠に直接名指し



で攻撃をされたり、インターネットのニュースサイトで、名指しでメチャメチャな記事を書かれたりされました。この在特会が、元々勢力を持つようになって、注目を浴びるようになったのが2009年です。2009年には、京都の朝鮮学校の襲撃事件もありました。

多くの方は、一部のおかしな日本人がやっていることだから、「ほっといたらなくなる」という視点の人が多かったと思います。また、多くのマスコミとかは、注目を集めて記事にしまうと、存在を認めたということになるので、あえて取り扱わないというスタイルの人も多かったと思います。私は2013年になってから、何とかしないといけないと思って、反差別のカウンター活動に関わりながら記事を書くようになりました。

マイノリティによる差別

ちょうど2013年2月の、一番ひどいデモから帰った後に、ツイッターを開くと、私宛に投稿がありました。「昨日のデモも、一昨日のデモも、良いデモだった。いい朝鮮人も悪い朝鮮人も

出て行け、そして李信恵は殺そう」と書かれていました。びっくりして、書き込んだ人のプロフィールを見ると、「反パチンコ撲滅デモ」とか、同じような在特会系の人と連動して200人規模のデモを主催している人でした。

酷いデモを見た直後だったので、本当に殺されるかもしれないと思って、恐くなったので警察へ連絡しました。警察へ連絡すると、サイバー捜査課が来て、事情聴取を受けて警察で経過を言って、書き込みをした人は「ノリでやった、反省している」と言っていますが、一応書類送検になり、警察に呼ばれて示談にして欲しいと言っていたがどうか？と言われましたが「いやだ」と言いました。

相手は沖縄出身の子で、親は反基地の活動家らしいです。沖縄から東京に出て、友達もいなくて仕事をしているけど、孤独を埋めてくれるのが差別的な活動だったのか、なぜ本土で在日と沖縄出身者が差別したりされたりしないといけないのかと思いました。差別されて「殺そう」とか言われて辛かったのですが、相手の方がかわいそうと



思う癖があるので、差別する所ではなくて、受け入れる所があったら、差別した人を矯正する施設でも作ろうかなとか、そういうシステムがあったらいいのにとっています。

訴える資格があるのは私一人

その「殺そう」と言われた以外にも、在特会の桜井誠から、「五寸釘をこいつに送り付けろ」とか、街頭でメチャクチャなことを言われたり、「保守速報」というインターネットのまとめサイトは、2013年～2014年の1年で、私の記事を45本書いたりしていました。45本というと、ほぼ毎週です。週に2～3本だったこともありましたが、その時に、朴槿恵元大統領^{パククネ}の記事が38本でした。

有田芳生さんと山本太郎さんもバッシングの記事を書かれていましたが、あの人たちは公人ということもあって、一般の女性の朝鮮人であれだけの記事を書いたのは私だけなので、提訴出来たらいいなあとあって、警察にも言いましたが、「五寸釘を送り付ける」と言われたと言っても、「届いたとしても、五寸釘は殺傷能力はないから」と言われました。

それで「ブスやババアと言われている」というと「李さんは可愛いから大丈夫」と言われました。腹が立つので「わかってるわ!」と返しましたが、やっぱり警察は男でマジョリティ、多数者だから女の人がそういうことを言われて、外見や年齢とかで差別や侮辱

されても親身になってくれなくて、警察はあかんと思いました。

その時が、ちょうど京都の朝鮮学校の襲撃事件の民事訴訟の地裁判決が秋にあったので、その後知り合った上瀧浩子弁護士という女性の弁護士に、裁判を受けてもらえないか相談しました。上瀧先生がいいなあと思ったのは、無年金裁判とか、朝鮮学校襲撃事件とか慰安婦問題にも詳しく、朝鮮人について詳しく、女性問題もやっておられ、何より女性だったことです。朝鮮学校襲撃事件の裁判をしていたので、インターネットにも詳しいし、ツイッターもやっておられて、運よく「いいよ」と言ってもらったので、無事に裁判をすることができました。

今ヘイトスピーチ解消法ができましたが、これは理念法なので、刑事罰にはなりません。「朝鮮人は死ね」「殺せ」といっても、捕まえることはできません。訴えることもできません。

私が訴えることができたのは、私の名前を名指しされたからです。京都の朝鮮学校も学校に来て襲撃されたから、学校は法人格があるので訴えることができたが、在日で女で名指しされている、訴える資格がある人は私一人だけだったので、裁判を起こしました。

結果的に両方とも最高裁まで行って、全面的に勝訴しました。ありがとうございます。

被害に遭ってから5年、提訴してからは4年かかりました。



ずっと、自分が差別された動画とかを見ていたので、一番ひどい時は11kg痩せました。体重減りましたが、メッチャ白髪が増えました。そして、突発性難聴になって、左の耳がまったく聞こえなくなってしまいました。

あとは、シワも増えました。差別は美容にも悪いなと思いました。

でも、いろんな人と知り合うことができたり、こんな裁判やっている時でも、障害を持っている人とか、LGBTの人とか、部落の人とか、ありとあらゆる被差別の人が来てくれて、そこでいろんなつながりも持つことができたので、裁判をして、いろんなつながりでつないでもらったことが良かったと思っています。

ヘイトスピーチのワクチン

今日もマスクをしている人が多いのですが、インフルエンザの予防接種を受けた人はいますか？

インフルエンザとは違う話ですが、

ヘイトスピーチをしないためには、ヘイトスピーチもワクチンが必要だと思います。ヘイトスピーチはネットから生まれて、現実まで蝕んでしまうウイルスみたいな物なんです。インフルエンザのワクチンをうっている人は、インフルエンザにかからないのはもちろんなのですが、ワクチンをうっていると、もしかかっても軽くすみます。なので、人権教育とか差別に関する取り組みとか、人の繋がりによって、発症しないようにできるのではないかと思います。

中学生からの殺害予告

去年の6月、とある地域の中学生から、インターネットで殺害予告に近いものと、ヘイトスピーチを受けました。大人ならすぐに警察に通報するのですが、その子のプロフィールとか細かい所をチェックすると、学校名とクラス名とすべて分かっしまいました。

「私は李信恵といって、フリーライターをしています。ツイッターであなただの学校の生徒さんから脅迫を受けたので、どうしたらいいのでしょうか」と学校に電話したら、人権担当の先生がすぐに飛んで来てくれて、学校で取り組みをするという話で結論が出ました。

学校の先生に絶対に退学・休学・停学にはしないで下さいとお願いをしました。そういう処分をして終わりにすると、放り出してなかった事になるのはおかしいし、学校で起きた差別事例

は学校で解決出来るから。これが卒業して大人になってからだったら、見守ることも教育することもできないですが、学校で起こったら、それこそすごい人権教育をされて、先生方もブラッシュアップやバージョンアップする機会だし、めっちゃいいじゃないですかと言って、新しいことを取り組んでもらう事を約束しました。

カッコいい大人になりたい

この施設（児童館）が平和の施設か何かに変わるらしくて、子どもの為に平和を創るのであって、平和は子どもがいなかったら成り立たないのに、平和も大事やけれど、今いる子どものことも大事にしないとイケないのにと感じていました。

私は差別のデモに行くときに、カッコいい大人になりたいと思いながら行っています。

オモニが若い頃に、「阪神教育闘争」というのがあって、朝鮮学校がGHQに潰されようとしたときがありました。オモニはその運動に参加して、学校を守る為に放水車に水をかけられたと言っていました。3月から4月の寒いときで「私は朝鮮学校を守ったんや」ということを、武勇伝みたいに1万回ぐらい聞かされましたが、私も将来は長生きをするつもりなので、その時に、差別が吹き荒れたあの時に何をしていた？と聞かれたら「闘っていた」とかっこつけて言いたいなと思って、頑張っています。

複合差別とあらゆる差別

今日は、複合差別の話があまりできませんでしたが、複合差別というのは、先日の2つの裁判で、判例に出てきた言葉です。民族差別だけではなくて、女性差別も含まれている「複合差別」が裁判の中で初めて認定されました。日本の最高裁の裁判で、判例になったのは初めてです。

この複合差別というのは、2つ以上の差別が重なった時のことを言うものです。2つ以上の差別が重なると、ややこしいのは1つの差別が注目されやすく、1つの差別がおろそかになって見えなくなって、解決しなくなります。でも、最高裁の判例になり、複合差別の概念がもっと広がれば、今抱えている問題の解決になるのではないかと思います。複合差別の形態はいろいろあります。部落出身で女性だっ

たり、部落出身で障害者だったり、障害者でLGBTだったりとかいろいろあります。いろんな被差別の状態が重なっている人もいると思うので、そういう差別の事が、もっとわかって解決できるようになればいいと思います。

私は、女性問題やヘイトスピーチとか在日の差別の問題などを基本的にやっていますが、やっぱり、色んな差別は構造的に似ていて、繋がっていると思います。なので、今日参加された方は、いろんな思いを持ってこられていると思います。在日の差別だけでなく、あらゆる差別が繋がっていて、在日というたら外国人やけど、移民の子孫でもあるんやなあとか、他の移民は今どうしているのかな？ということとかを、心のどこかに置いてもらえたらと思います。

平和ってなに？

利用者の立場に立った説明を

酒井 留美【事務局】

豊中市は「人権まちづくりセンター」条例を廃止し、「人権平和センター」条例を設定する議案を昨年12月に提案し12月7日の総務常任委員会で賛成多数で可決され、12月9日の本会議で原案どおり可決され、2020年4月1日に施行となりました。

そのことについて、昨年11月に1回目、そして2月20日に2回目の「豊中人権まちづくりセンター児童館事業の見直しにかかわる利用者説明会」が行われました。

経過、趣旨、事業内容、運営、条例、移行時期が書かれたA4、1枚が配られ、

これを見る限り具体的な内容が全く分からず、そこに書かれていることを声に出しているだけで、とてもわかりにくい説明でした。

児童館は現在週6日開館しているが曜日によって利用者数がちがう。月曜日と水曜日は利用者が少ないので週4日遊び場として利用している部分を残し、学習支援は週2回程度を実績ある事業者へ委託し、部屋は3階2部屋(残りの部屋は平和関係)、2階の一部利用しないときの大集会室や小集会室やぼかぼかルームを利用する。長期休暇は(夏休みなど)どうするのか聞かれると、夏休みは家庭で過ごすのがいいと。子どものこと、その背景などを全



く無視したことが言われ、今、子どもの居場所のことなどとても話題になり社会問題にもなり、さまざまな所で取り組みがされている中、豊中市は、豊中人権まちづくりセンターは時代を逆に進もうとしているようにしか思えない。

どこでどうなって豊中市はこんなことになってしまったのか、「平和」を付け加え今まで大切にしてきた児童館、隣保館を精算し、次は部落問題は解決したなどと言いかねない恐ろしさがあります。子どもの平和を奪って何が人権平和センターなんだ！！

1回目も2回目も、多くの人に参加してもらい理解をしてもらいたいというものではなく、説明会を開催したというアリバイづくりのような案内、時間設定でした。今年度もいつ説明会があるか(ないか)わかりませんが、子どももおとなも、みんなが納得できる説明を求めていきましょう。

パネル展

東日本大震災から8年…

福島 智子【事務局】

毎年、蛍池人権まちづくりセンターを会場に開催してきた「現代的課題講演会」ですが、年度初めから、教育委員会と蛍池人権まちづくりセンターとまちづくり協会で、内容の検討をして

きました。意見を出し合い、2月実施で進めていきましたが、結局開催できませんでした。

そこで急遽、「3.11震災写真展」を開催することにしました。事務局が震

災の年から、数回現地へ出向き記録した写真や、現地の方から提供いただいた写真が、1,500枚以上ありましたので、モニターでスライド式に見られるように設定をして、センターへ来ていただいた方に、知ってもらおうと展示をしました。立ち寄られた方が足を止めて、見ておられた姿が印象的で、親子で震災の話をされている様子も見



ことができました。

写真の展示のそばには、来館された方や子どもたちに「あなたにとっての安心とは？」ということで、ハートや星の形の付箋にコメントを書いてもらいました。中には「友達と一緒にいてくれる時」など、たくさんのコメントを書いてもらいました。



書評

死体格差 解剖台の「声なき声」より

重本 洋輔【事務局】

この本は、現役の法医解剖医である西尾元教授によって書かれたノンフィクションで、死体の解剖をとおして気づかされた「格差」や「社会課題」について取り上げられている。西尾教授によると、これまで自身が解剖してきた遺体のおよそ50%が独居者であり、約20%が生活保護受給者、約10%弱が自殺者、そして、約30%弱が精神疾患患者で、そのうちの認知症患者だけ

みても全体の5%以上を占めているなど、いわゆる「社会的弱者」と呼ばれる人たちが多いそうだ。

雪山でも寒冷地でもない街中のアパートで凍死した事例、誰にも気づかれず助けを呼ぶこともできずに死んでいった孤独死の事例、認知症の妻を入浴させる際に夫が溺死してしまった事例など、本の中で取り上げられている事例はすべて「今の日本で起きている

現実」であり、いずれも「我々にとって身近なところでも起こり得る出来事」として捉えていく必要がある。

今後もこうした事例は少子高齢化や核家族化、格差・貧困の拡大などを理由に増え続けていくだろうし、特に孤独死については激増するとの予想もあるが、このまま手をこまねているわけにはいかない。

格差・貧困がどんどん広がり続けている日本において「死に方や死後の扱われ方にも格差が生じている」ということを思い知らされ、気を重くさせられてしまった部分もあるが、それぞれの地域におけるネットワークの強化や人と人とが互いに支え合っているような関係づくりなど、地域社会の重要性について改めて考えてみるきっかけになった。

格差や貧困についてはすぐになんとかできるものではないが、本の中で取り上げられているような悲しい死が少

しでも減っていくことを願いたい。

最後に、本の中で最も印象的だった部分を抜粋して、締めくくりたいと思う。

現代社会は、自身とは直接関係のない命に対して、距離を置くようになっている。かつての日本は隣近所の関係性が深く、隣人の死はもっと身近なものだったし、その死を地域で弔うことは特別なことではなかった。自分以外の人の「生」と「死」をもっと近い距離で感じていたのだと思う。昨今、日本人の多くが病院で亡くなっていく。そこは高度な医療が受けられる場所である半面、世間から隔離された空間でもある。そのため、私たちが人の生、老い、そして死を実際に体験する機会は、非常に限られるようになっている。

言い方は適切でないかもしれないが、人は死に向かう際、ある意味で“汚れて”いく。寝たきりで風呂にも入れず、痰も出れば、糞尿も垂れ流しになる。「死んでいく」とはつまりそういうことなのだ。

そうした“見たくない現実”に対して、現代人は過剰に距離を取ろうとしているように思えてならない。ある種の潔癖さが、社会的に役に立たないと判断した人、関われば自分に何か損がありそうな人を排除するような状況を生み出しているのではないか。そうして、弱い立場の人たちが、ますます社会から孤立してしまっている気がしてならない。



著：西尾元 双葉社

●編集後記●

◆「怒りとの上手なつきあい方」のセミナーで、無視、無言はコミュニケーションのなかで、一番してはいけない最悪な方法だと学んだ。我が夫も基本的に黙り込むタイプだ。夕飯時、無言でムスっとしている夫に、「なに？」と聞くと、「冷たいおかずばかりやん」という。その後の展開はご想像にお任せする。人間関係は「勝負」ではなくいかに「誠実」であるかがポイントです。豊中市には誠実な対応を求めたいし、建前ではない「人権」とは何かをしっかりと考えてもらいたい、いや、共に考えたいです。

◆関東大震災で虐殺されたのは朝鮮人や中国人だけではなく。自警団に「15円50銭と言ってみろ」と言われるも、耳の聞こえない聴覚障害者は返事をする事ができずに殺された。理不尽という言葉で済ませていいはずがない。虐殺の史実を消し去ろうとする動きもあるが、96年前の悲劇は今も地続きで続いている。ヘイトスピーチがヘイトクライムとなり、ジェノサイドにならないためにも過去を振り返り、冷静な判断をすることが我々に問われているのではないだろうか。◆イライラせずに、楽しく子育てがしたくて、子育てに関する本を読み漁っていた。エレンラガーの「心の『とらわれ』にサヨナラする心理学」の紹介を読むと、自分のなかの子育てに対する「ねばならない」の多さに気づかされた。マインドフルネス同様まずは自分自身と向き合う必要がありそうだ。◆女性を取り巻く現状が辛すぎる一冊でした。貧困、非正規雇用、シングルマザー。この国の制度は誰のために何のためにあるのかと問いた

くなる。最悪な現実と格闘する女子高生たちの肉声を物語に結実させた桐野夏生の「路上のX」もオススメです。◆54年という年月に驚いたものの、私が豊中で務め出して15年が過ぎようとしている。以前はフラリと事務所に寄ってくださっていた石原さんも諸事情で主夫となり、これまでとはまた違った忙しい日々を送っています。お連れ合いにも数えきれないくらい、事務所のpcをお世話してもらいました。豊中における解放運動の生き字引として今のうちに聞き取りをしておかねばなりません。オフレコだらけのトークになりそうですが。◆年明けすぐに李信恵さんと鶴橋で講座の打ち合わせをしました。場所は駅降りてすぐの「ロックヴィラ」という喫茶店。ロックが岩で、ヴィラがピレッジ・村で岩村さん。ストーンリバーと同じだ。コーヒーを飲むだけに入ったことは何度かあったが、名物のキムチサンドを食べるのは初めて。キムチの水気が出て、ベチャットしてそうと勝手に思い込んで敬遠していたけれど、ものすごく美味しかった。みなさんにもぜひ召し上がっていただきたい。講座の打ち合わせのはずが、お互いのルーツの話、講座に直接関係のない話でおおいに盛り上がり、私の中では本番が終わったぐらいの達成感。李さんの引き出しの多さに脱帽でした。次回はビールがいいですね。◆長女が小学校に入学しました。説明会、入学式当日に色々思うことがあったので、ブログで報告します◆賛助会費の振り込み用紙を同封しております。強制ではありませんが、ご支援ご協力のほどよろしく願いいたします。ご意見ご感想も是非！（森山）

人権相談をご利用ください

1. 人権ケースワーク事業（豊中市からの受託事業）

●定例相談

とき：月曜・水曜・金曜日の9時～17時

ところ：蛍池事務所（蛍池人権まちづくりセンター内）

電話：06-6841-2315

●出張相談

とき：第2、第4木曜日の13時～15時

ところ：豊中市役所第2庁舎1階広聴係

2. 人権相談（自主事業）

とき：月曜日～土曜日、事務所開設時（9時～17時）に随時受付

ところ：豊中事務所（豊中人権まちづくりセンター内）

電話：06-6841-5300

mail：bwz37306@nifty.com

●編集：発行

一般財団法人

とよなか人権文化まちづくり協会

豊中市岡町北3-13-7 豊中人権まちづくりセンター内

TEL：06(6841)5300 FAX：06(6841)6655

HP：<http://jinken.la.coocan.jp/>

E MAIL：bwz37306@nifty.com 郵便振替：00960-8-153806

蛍池事務所 TEL:06(6841)2315 E MAIL:bpazk307@tcct.zaq.ne.jp